

## 第2回 生命文化誌セミナー

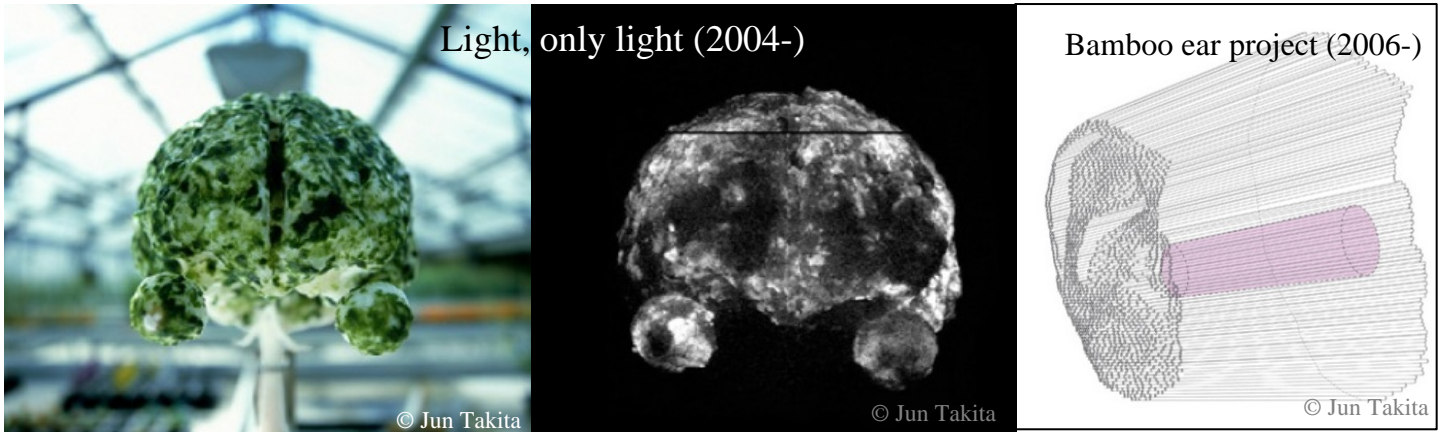
# Artist lecture 滝田順 Jun Takita

<http://www.juntakita.com/>

2008年9月16日(火) 15~17時

早稲田大学 先端生命医科学研究センター

50号館 3F セミナールーム3



生命観や生命科学の文化的・歴史的側面に関する研究者やアーティストを招き、(広い意味での)「アートにおける生命表現」や「生命科学の文化史」などに関する研究を紹介する生命文化誌セミナー。その第2弾は、フランス在住で、世界的に活躍しておられる気鋭のアーティスト、滝田順さんにご登場いただきます。

滝田さんは、植物や身体、知覚など、一貫して生命活動に関わるモチーフやバイオマテリアルを用いた先鋭的な創作活動を推進してこられ、生物学者とのコラボレーションも多く、バイオ・アートの先端的な試みを続けてこられました。

今回のセミナーでは、ご自身の作品をご紹介いただきながら、その創作活動のモチベーション、科学者との共同研究の体験、科学とアートの境界面に関する観方などについてお話いただきます。

国内でお話を聞ける貴重な機会ですので、アート系、サイエンス系を問わず、どうぞ奮ってご参加ください。

### プロフィール

1988年、日本大学芸術学部美術科卒。89年より渡仏、91年まで、パリ国立美術高等学校にてピオートル・コワルスキーのゼミを聴講、1991-92年、同校フランス政府給費のマスターコースを受講。以後現在までパリを拠点として活動を続けている。

2004年より制作を続けている作品「Light, only light」では、遺伝子操作によって生体発光能を有された苔を、自らの脳の立体モデル上に生やした。日仏の庭で伝統的に共通する視覚効果の探求精神に則って、庭の現代のあり方を問う。また光合成など生体の光変換現象を通して芸術の可能性を探っている。

名古屋大学の情報科学研究科生命リズム研究室の青木摂之氏、フランス国立農業試験場ベルサイユ研究所のファビアン・ノグ博士、イギリス、リーズ大学植物科学センターのアンドリュー・カミング博士、神杉泰子博士らの協力を得つつ、オーストラリアのパーズ、イギリスのリバプールなどで開催されたバイオアート関連の展覧会に参加、今後ノルウェーやオーストリアでも参加が予定されている。

連絡先：岩崎秀雄（早稲田大学 理工学術院，科学技術振興機構さきがけ）

hideo-iwasaki @ waseda.jp

<http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/bioculture2.html>